

# 昭和48年度国土総合開発事業調整費調査 むつ湾漁業開発基本計画調査

## (要 約)

伊藤 進・富永 祐二・尾坂 康・永峰 文洋・菅野 溥記  
青山 宝蔵・植木 龍雄・小川 弘毅・早川 豊(以上青森県  
水産増殖センター)長峰 良典・林 義孝・原口 健二・斎藤  
重男・田村 真通(以上青森県水産試験場)石岡 春高・植村  
康(以上青森県漁政課)

陸奥湾における漁業開発基本計画を策定する目的で、水産庁からの委託事業として、昭和47年度後半より、湾内の漁場環境、水産生物の生態、社会経済条件の調査を実施している。今年度はその2年目に当るが、未だ結論を得ていないものが多いので、ここでは調査内容のみを記す。なお詳細については、脚註の報告書に印刷済みなので、これを参照されたい。

### I 漁場環境の調査

1. 波浪調査…………… 横浜および蟹田に設置した波高計により、周年、波高を自動観測した。
2. 流向流速調査…… 人工クラゲ(表層および底層クラゲ)により、昭和48年12月と昭和49年3月の2回調査した。
3. 水質調査…………… 昭和48年5.8.11月、昭和49年3月、40地点において透明度、水温、塩分、D O C O D、P H、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、S Sなどの調査を実施した。
4. 底質調査…………… 昭和49年1月、東田沢地先の27地点において採泥し、全硫化物、粒度組成、C O D、強熱減量などを分析した。
5. 海況自動観測装置(ブイ・ロボット)の設置……………平館、東田沢、川内地先に設置した。観測項目は、水温、塩分、D O、流向速の4種類で、観測は明年度より実施の予定。

### II 生物生態の調査

#### 1. 底魚の分布生態調査

- A 地曳網・エビ網による調査……………昭和48年5、10月の2回、湾内15地先において、地曳網またはエビ網により底魚を採捕し、個体数、胃内容などを測定した。
- B かけ廻し網による調査……………昭和48年9~10月、湾内22地点において、かけ廻し網により魚類を



詳細については「昭和48年度国土総合開発事業調整費調査、むつ湾漁業開発基本計画調査報告書 昭和49年3月青森県」に発表済み。

採捕し、個体数、胃内容などを測定した。

2. 主要魚類の陸上調査……昭48年11月より昭49年3月に至る間、湾内7地先において、魚類の水揚量の調査、標本船調査およびカレイ類、ソイ、アイナメの魚体調査を実施した。
3. 底生生物の調査……地曳網、エビ網による底魚の分布生態調査の際に入網したメガロベントスの個体数を測定整理した。
4. プランクトンの調査……昭49年2月、3月に湾内10地点各層より海水をとり、SSとクロロフィル含有量を測定した。

### Ⅲ 社会経済条件の調査

1. 漁業生産基盤の調査……漁業協同組合、漁業経営体、漁業就業者、漁船などの動向を整理した。
2. 漁業生産動向の調査……本県漁業生産の概況、沿岸漁業の生産量、沿岸漁業の生産額などを整理した。